

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

FUJISAN NETWORK

2020.10

vol.

61

美しい富士山を、未来の子どもたちに

ふじさんネットワーク

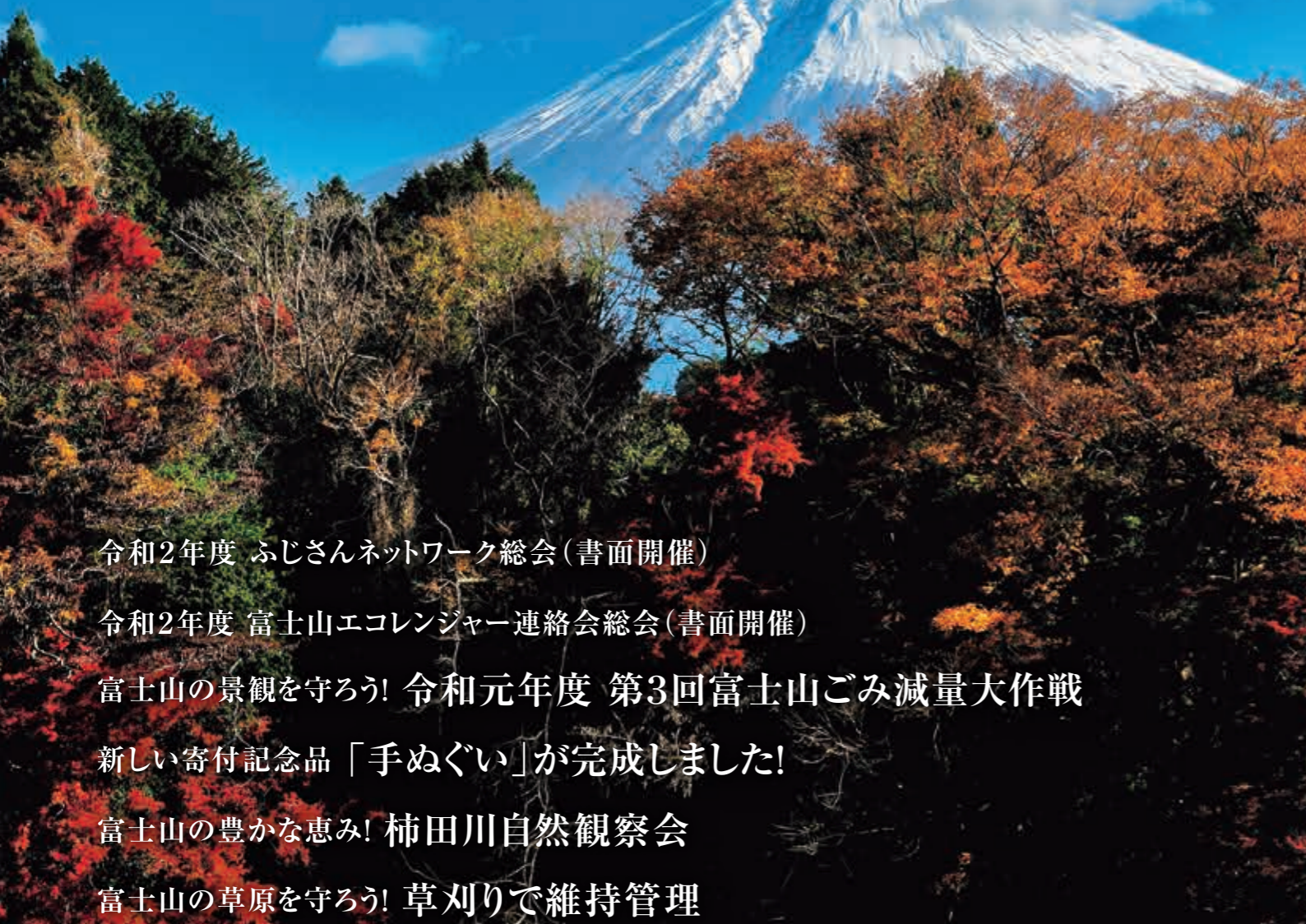
2020.10
vol. 61

巻頭インタビュー

富士山の自然を守り、 後世に託す

富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事

吉永耕一さん



令和2年度 ふじさんネットワーク総会(書面開催)

令和2年度 富士山エコレンジャー連絡会総会(書面開催)

富士山の景観を守ろう! 令和元年度 第3回富士山ごみ減量大作戦

新しい寄付記念品「手ぬぐい」が完成しました!

富士山の豊かな恵み! 柿田川自然観察会

富士山の草原を守ろう! 草刈りで維持管理

Welcome



Join Us

「ふじさんネットワーク」 会員募集中!

Check!

「ふじさんネットワーク」は、その活動を通じて、富士山を国民の財産として、世界に誇る日本のシンボルとして、後世に引き継いでいくことを目的とします。富士山の環境保全活動を行うグループ、自然保護団体、NPO、企業、マスコミ、行政等による会員制のネットワーク組織ですが、富士山を愛する人なら個人でも登録ができます。

入会費
年会費
無料

特典

- 「ふじさんネットワーク」の冊子が届きます
- イベント情報をいち早く入手できます
- シンボルマークが使えます

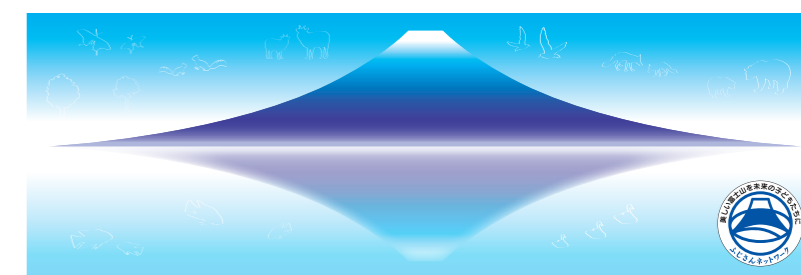


「ふじさんネットワーク」の取り組みなどはホームページから見る事ができます。

<http://www.fujisan-net.gr.jp/>

寄付していただいた方に
オリジナル記念品
を差し上げています

「富士山総合環境保全指針」と行動規範としての「富士山憲章」の周知・定着を図り、富士山の環境保全への関心を高めてもらうため、ふじさんネットワークの環境保全活動への寄付を募るとともに、記念品を差し上げています。



NEW 新寄付記念品 手ぬぐい「鏡富士」
■サイズ:(約)35cm×90cm ■綿100% ■1口:1,000円以上

ピンバッジもぜひご利用ください。
一口300円から気軽にできる寄付です。

高級感のある光沢加工で
文字はゴールドのピンバッジです。

SAVE Mt.FUJI

- ピンバッジ(1個)
- サイズ:直径26mm
- 1口:300円以上



花シリーズ

- ピンバッジ(1セット5個組)
- サイズ:1個 1辺33mm
- 1口:1,000円以上



富士山の雲シリーズ

- ピンバッジ(1セット4個組)
- サイズ:1個 直径32mm
- 1口:1,000円以上



直接受取希望: ふじさんネットワーク事務局まで、事前にご連絡をした上でお願いします。TEL 054-221-2963
寄付をいただいて、同時に記念品をお渡します。

送付希望: 郵便、電話、FAXまたはメールで①～⑤の事項をお知らせください。①名前 ②住所 ③電話番号 ④寄付金額 ⑤希望する種類・個数 振込用紙を住所へ送付します。振込の確認ができれば、記念品を送付します。(振込手数料・送料は不要)



ふじさんネットワーク 2020年10月 vol.61

編集・発行 **ふじさんネットワーク事務局**

静岡県くらし・環境部環境局自然保護課内 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

電話:054-221-2963 ファックス:054-221-3278

E-mail:3776fujii@pref.shizuoka.jp URL:<http://www.fujisan-net.gr.jp/>

ふじさんネットワーク

- 設立 平成11年10月23日
- 会長 増澤 武弘
(特定非営利活動法人静岡自然環境研究会理事長・静岡大学客員教授)
- 会員数 550団体・個人 (R2.10.1現在)

※本書の作成には、マックスパリュ東海株式会社及びハーゲンダッツジャパン株式会社からの寄付金が使われています。



富士山の自然を守り、後世に託す

巻頭インタビュー



富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事

吉永耕一さん

Interview

ふじさんネットワークに 入会したきっかけ

私は富士山の自然とその保全を学び、大好きな富士山に関わりたいと考え「ふじさんネットワーク」に入りました。富士山との出会いは、学生山岳部での「冬富士」合宿です。冬富士の厳しさをこの時に体感しました。社会人になると、なかなか山に登る時間を作れません。しかし50歳を迎えるころに氷河の山に登りたくなくなり、山登りを再開しました。北米の自然公園へ行く機会が幾度もあり、氷河の山々に登りました。氷河の山を登っている最中にはいつも、雪の富士山が心の中に取り残りました。レーニア山に登頂した翌年の元旦に、「富士山とレーニア山日米交流」の記事が目にとまりました。レーニア山で活躍する日本人学生ボランティアと、大戦で苦勞した日系人がレーニア山を「タコマ富士」と呼び、「心のふるさと」として勇気づけられた話です。その記事を読み、夏にレーニア山国立公園を再訪しました。レーニア山には日本人学生ボランティアと国立公園局が協働して整備した、車いすでも通行できる遊歩道がありました。私はこの素晴らしい



日本人学生ボランティアが整備に携ったレーニア山の遊歩道(2001年)

富士山の自然環境を 保全するための活動

2005年に富士山エコレンジャーになってからは、妻とともに環境パトロールを行っています。来訪者の方と会話したり、富士山の自然の素晴らしさをお伝えしたり、動植物や登山道、ハイキングコースの状況を記録し報告しています。環境パトロールと説明会を合わせて、いつの間にか270回を超えました。特に、2012年



熊対策用の鈴とスプレー

から現在も続けている大規模トレイルラン・レース環境調査が重要な活動となっています。富士山南麓の樹林帯に代表される柔らかな土壌の歩道は、大勢のランナーの走る衝撃には耐えられません。「歩道自体の荒廃」、「周辺植生の損傷」、「森をはぐくむ土壌流出の加速」など様々な問題が生じています。ハイキングのような歩行衝撃ではなく、何百人、何千人ものランナーが走り抜けることは富士山へのダメージが非常に大きいのです。そのため、レース後の歩道及び周辺環境の変化を記録する調査を継続しています。

後世に富士山の 自然環境を残すために 必要なこと

ボランティア活動をしている方は、高齢の方が多いという現状が課題です。若者にも、富士山の自然に興味、関心をもってもらうことが肝要です。

CONTENTS

- 03 [巻頭インタビュー]
富士山の自然を守り、
後世に託す
富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事 吉永耕一さん
- 05 令和2年度
ふじさんネットワーク総会(書面開催)
令和2年度
富士山エコレンジャー連絡会総会(書面開催)
- 06 富士山の景観を守ろう!
令和元年度 第3回富士山ごみ減量大作戦
新しい寄付記念品
「手ぬぐい」が完成しました!
- 07 富士山の豊かな恵み!
柿田川自然観察会
富士山の草原を守ろう!
草刈りで維持管理
- 08 「ふじさんネットワーク」
会員募集中!

表紙の写真



白糸の滝公園(富士宮市)

出典『Photo AC』

富士山憲章(行動規範)

1. 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
1. 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
1. 富士山の自然環境への負担を減らし、人との共生を図ろう。
1. 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
1. 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

静岡県・山梨県

若い人たちはボランティア活動にも積極的に参加して、自然に触れる機会を作つてほしいと思います。富士山の環境変化は、自然の変化による影響だけでなく人間の利用の仕方にも問題があります。外来植物も、これに当てはまります。人間の活動により、地域の外から植物が持ち込まれるのです。外来植物の侵入は、本来あるはずの植物やその植物に依存した生活を送る動物に大きな影響を与えます。『富士山を訪れる人々が全員、自然への負荷を減らして



子どもたちに富士山の自然の素晴らしさを伝える(2019年)

安全に利用する』、こういった姿勢が、後世に富士山の自然環境を残すためには非常に大切なことです。自然への負荷を減らすことは、先人によって、保全を決議して制定された「富士山憲章」や、「富士山総合環境保全指針」の要であり、富士山を利用する際は、これらの指針等を今一度確認することが重要です。

これからの活動について

これまで、自然林回復など富士山自然環境保全活動に参加してきました。活動当初から今まで、様々な自然環境の変化を見てきました。これからは私たちが知らない富士山が顔を出すことになるでしょう。富士山エコレンジャーや富士山エコサポーターの仲間とともに富士山の恵みをたのしみながら環境、パトロールに出かけ、より多くの方に、富士山の自然環境の豊かさと現状、保全の大切さを知ってもらえるように働きかけたいと考えています。富士山は2013年に世界文化遺産に登録されました。次は、世界自然遺産も含めた複合遺産への登録に向けた取り組みをふじさんネットワークに期待しています。



笑顔が似合う富士山エコレンジャー(2019年)

よしなが こういち 吉永耕一氏

- 1950年生まれ(70才)
- 富士山エコレンジャー連絡会 代表幹事
- 富士自然観察の会 家族会員

富士山周辺で四季を通して活動しています。今年度は、富士山に登れないので、富士山自然休養林の利用調査等に注力しています。平素は、日本固有の針葉樹観察や自然に親むための歩道の荒廃に関心を持ち、歩道の支持力や周囲の植生の変化に着目してパトロールをしています。富士山エコレンジャーの吉永厚子氏と共に、夫婦で活動しています。



世界文化遺産の登山道を解説

NEWS

令和2年度 ふじさんネットワーク総会(書面開催)



令和2年度のふじさんネットワーク総会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)以降、本書内では「新型コロナウイルス」と表記する(感染拡大防止のため、書面により開催しました)。

正会員260団体等に総会資料を送付したところ、過半数を超える137団体から議決書の提出があり、総会は有効に成立いたしました。また、議案についても、議決書提出者全員に承認の意向を表明いただきました。

令和2年度は、自主財源獲得の強化を行います。従来、寄付金の返礼品としていた「ペンパジ」3種に加え、「手ぬぐい」を追加することで、ふじさんネットワークへの更なる寄付に御協力いただき、自主財源の獲得を強化します。この手ぬぐいについては、

後述の別記事で詳しく御紹介します。

また、富士山学習リーフレットの電子化を行います。これまでは紙媒体で配布していましたが、ふじさんネットワークのホームページ等を通じた電子版の公開に変更いたします。より多くの方に御利用いただけるようにすると共に、郵送費の削減等を図ります。

最後に、補助事業の改善です。昨年度から開始した「富士山環境保全事業費補助金」ですが、交付決定前に行った経費についても補助対象とできるように改正しました。これにより、年度初めに実施しなければいけない活動も、補助が受けられるようになりました。補助金の詳細については、ふじさんネットワークのホームページをご覧ください。なお、令和2年度の補助金申請は締切らせていただきましたので、来年度の活用をお願いいたします。

その他、収支決算等については、ふじさんネットワークホームページに掲載させていただきますので、御確認ください。なお例年ですと、総会後に富士山周辺で精力的に活動している団体等を講師に迎え、活動報告会を実施していましたが、総会の書面開催に伴い、今年度は実施しませんでした。

NEWS × COLUMN × REPORT

COLUMN

令和2年度 富士山エコレンジャー連絡会総会 (書面開催)

例年ですと、ふじさんネットワーク総会と同日に実施される富士山エコレンジャー連絡会の総会ですが、ふじさんネットワークの総会に倣い、書面開催となりました。

総会資料では、昨年度の活動実績と本年度の活動計画、そして幹事の改選について諮ったところ、全員から議決権行使書の提出があり、賛成多数により承認されました。

富士山エコレンジャーは、富士山憲章に基づき、富士山の自然環境を守り、その素晴らしい自然を来訪者に伝えるため、ふじさんネットワーク会員の有志で構成された実働部隊です。富士山周辺で環境パトロールを行うほか、研修会等により研鑽を積み、富士山の自然環境を後世に継承するために日々尽力しています。

富士山周辺で「富士山エコレンジャー」の

腕章を付けた方を見かけましたら、富士山に関する旬な情報が聞けるチャンスですので、是非お気軽にお声かけください。

なお、富士山エコレンジャー連絡会では、年間を通して、富士山エコレンジャーの候補生である「富士山エコサポーター」を募集しています。昨年度は、「富士山エコサポーター」2名が所定の研修等を修了し、本年度に富士山エコレンジャーとして登録されました。

富士山エコサポーターの応募には、ふじさんネットワーク正会員団体の推薦があり、満年齢が18才〜65才である等の要件があります。富士山の自然環境保全やマネー啓発活動に興味のある方は、ふじさんネットワークホームページをご覧ください。事務局までお気軽にお問い合わせください。



- 1 来訪者へのマナー啓発
 - ごみの持ち帰り ●登山道を外れて歩かない
 - 環境配慮型トイレの利用時の注意など
- 2 来訪者への自然解説等の情報提供
 - 富士山の動物・植物 ●地形・地質 ●気象
 - 歴史・文化など
- 3 動植物の保護とその情報提供
 - 貴重な動植物や森林などの保護活動
 - 保護研究に役立つ情報の収集



富士山の景観を守ろう！ 令和元年度第3回 富士山ごみ減量大作戦

令和元年度第3回目のごみ減量大作戦が、令和2年2月22日(土)に富士宮市で開催されました。

ごみ減量大作戦はふじさんネットワーク、静岡県、地元市町及び静岡第一テレビ24時間テレビチャリティー委員会の4者が共催して、年3回実施しています。今回はこの4者に加え、地元のごみ収集業者である株式会社三井エンタープライズの方々に御協力いただき、5者で共催いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大が危ぶまれていた時期ではありましたが、受付にアルコール消毒を設置したり、参加者にマスク着用を呼びかけたりする等、感染拡大防止に十分に留意して実施しました。70名のボランティアに御協力いただき、ソーシャルディスタンスを取りながら国道469号線沿線にてごみ清掃を実施したところ、可燃ごみ115kg、不燃ごみ115kgの計230kgのごみを回収することができました。

今回で31回目を数えるごみ減量大作戦ですが、通算参加ボランティア数は2,046名、ごみ回収量は12,960kgとなりました。この数字から本活動が富士山の自然景観を保全する一助となっていることが実感させられます。皆様の多大な御協力、ありがとうございました。



ごみ回収の成果

なお、令和2年度第1回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、関係者のみで7月に富士市で実施する予定でありましたが、荒天が予想され、残念ながら中止となりました。



清掃活動の状況



富士山を背に集合写真



富士山の豊かな恵み！ 柿田川自然観察会



柿田川の湧水

柿田川は富士山に降った雨や雪が地中に染み込み、長い年月を経て、地表に湧き出し、清らかな湧水として私たちの生活を潤しています。柿田川はこの代表として、富士山の自然の恵みを存分に受けており、「名水百選」にも選ばれています。

今年度の柿田川自然観察会は、例年同様、公益財団法人柿田川みどりのトラスト及び柿田川自然観察の会を案内役として迎え、新型コロナウイルス対策を十分にしつつ、令和2年8月2日(日)に実施しました。

観察会は家族を対象に公募し、30組102名の方々に御参加いただきました。最初に柿田川みどりのトラストの漆畑会長(ふじさんネットワーク副会長)から柿田川の自然や特徴について説明があった後、同协会会员から、シシバイカモ等の貴重な植物は観察だけで採取せず、他の動物についても、捕まえた後は必ず放流して欲しいというお願いがありました。



観察会の様子

柿田川に入って観察会が開始されると、参加者はタモやバケツ等を使用し、ウツセミカジカやモクスガニ、ヌマエビなど多種多様な動物を捕まえて、それらに顔を寄せ観察をしていました。例年は観察会後半に、柿田川の動植物を水槽に集めて観察する時間がありました。今回は密集を避けるため、行いませんでした。

暑い日差しが照りつける日でしたが、年間を通して水温が15℃程度で変化の少ない柿田川で気持ちよく観察会を実施することができ、参加された皆様にとって、夏の思い出になったのではないのでしょうか。

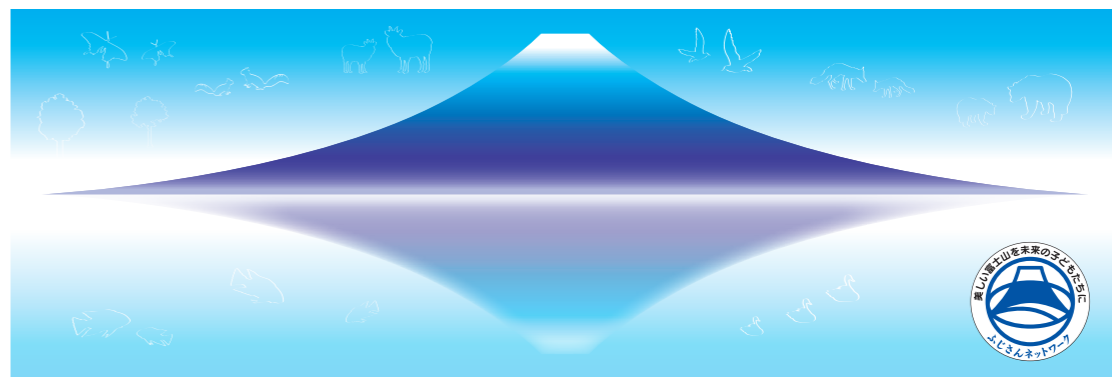


観察会の様子(左上)、参加者が捕まえたモクスガニ(左下)、シシバイカモ(右)

NEWS × COLUMN × REPORT



新しい寄付記念品 「手ぬぐい」が完成しました！



新寄付記念品 手ぬぐい「鏡富士」 □ 1,000円以上 ●サイズ:(約)35cm×90cm 綿100%

令和元年度ふじさんネットワーク情報誌Vol.60でお知らせしましたとおり、ふじさんネットワークに御寄付いただいた方に差し上げる新しい記念品として、「湖面に映える逆さ富士」をモチーフにデザインした手ぬぐいを作成いたしました。

昨年度末の富士山勉強会や、今年度のふじさんネットワーク総会において、最優秀賞デザインの発表会を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で会議等が中止になったことで機会を逃してしまいました。今回、情報誌を発行する機会がありましたので、この場で会員の皆様にデザインを発表させていただきます。

この手ぬぐいは、1,000円以上の寄付で記念品として1枚差し上げております。寄付を希望される方は、本書裏表紙、もしくはふじさんネットワークホームページをご覧いただくか、事務局まで御連絡ください。寄付の方法等について御案内させていただきます。



デザインは選考会を経て決定されました。



富士山の草原を守ろう！ 草刈りで維持管理



草刈り前

例年行っている「富士山草原性植生保全活動体験会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら今年度は開催を見送ることになりました。しかし、富士山麓の貴重な草原にいる動植物を守るために、静岡県が委託する草刈りによる維持管理作業は、例年どおり実施されています。

維持管理作業を受託している特定非営利活動法人富士山自然の森づくりは、ふじさんネットワークの元副会長である仁藤氏が理事長を務める団体であり、富士山周辺の森づくりや環境保全活動等に精通した団体です。



外来種キクイモ(左上)、参加した常葉大学の学生(左下) 草刈り方法の指導(右上)、作業状況(右下)

昨年度のような大規模な草刈り体験会は実施できませんが、この維持管理作業でも少人数のボランティアを募集し、都合の合うときに作業をお手伝いしていただいております。今年度は暑い夏を避け、9月からボランティアの参加を始め、これまでに数回実施することができました。今年度は、常葉大学の学生がボランティアとして参加していただき、その若い力を富士山の環境保全に役立てていただきました。

広大な草原ですので密になることもなく、富士山麓の貴重な草原性植生について学び、動植物に触れ、その自然を自らが保全しているという実感を得ることができ、参加者からは好評をいただきました。今後も、12月頃までは維持管理作業を続けていきます。



草刈り後